Mission
３０分で１８／３０点を突破せよ！

第八講　過去問実践演習　２０１５年理系第二問

次の文を読んで、後の問に答えよ。

報道は人間の生理的な必要である。しかもこの必要は近代になってから日をおってその強度を増している。それには色々な理由が考えられる。第一に経済的にも政治的にも文化的にも世界の諸国が緊密に結び合され、そのために世界の片隅に起こった事件がやがて各個人の生活に影響を及ぼすようになって来たからであろう。吾々から遠く離れたところで勃発した戦争が、いつ吾々自身を戦場に立たせるか判らない。外国の穀物の産額が吾々の生活に深刻な変化を惹(ひ)き起こすことも決して稀ではない。第二に社会の事情が甚だしく複雑性を加え来っていることが考えられる。或(あ)る国の状態が他の国の民衆の生活に影響を与えると言っても、それはいつも直接的なものばかりではない。両者の間には他の幾つかの国の状態と利害とが立っていて、そこを通過する影響に常に新しい方向を与えようとしている。穀物の産額の増大が必ず価格の低落を結果すると言うことは出来ない。一国内部にして見ても、そこには神の如き眼を以てしなければ到底その全貌を

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

捕えることが出来ないような複雑な関係が横たわっている。第三に社会の変化と運動とがその激しさを加えて来たことを指摘しよう。昔の学者は動く社会と動かぬ社会とを区別した。前者はヨーロッパの社会のことであり、後者はアジアの社会のことである。これはヨーロッパが夙（つと）に資本主義を確立していた時に、アジアが未だ封建主義に立っていたからである。資本主義社会は本質的に動く社会であり不断の変化を伴う社会である。アジアも今は動く社会になっている。もしも環境が動き変ずるものでないとしたら、吾々は報道を生理的必要と見ることは出来ない。父祖の代から行われている習慣に頼って生きて行くことが出来るはずだからである。動く社会は報道を必要とする社会である。第四に近代社会においては各個人が自分で生きて行かねばならぬということが注意されねばならぬ。昔は誰かが多くの人々に代って環境を知り適応の道を学び、他の人々はその後について歩んで行けばよかった。しかし今は個人主義がいかに非難されようとも、各人が自己の運命の主人にならねばならぬ。自分の幸福は自分で喜び、自分の不幸は自分で嘆かねばならぬ。自ら生きようとするものは、自ら環境に適応せねばならず、自ら環境について知らねばならぬ。（1）現代の人間が報道を欲するのは、その当然の権利に基づいていることである。

現在の報道、交通、通信の機関は高度に発達した技術を基礎として立っ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１８／３０点を突破せよ！

ている。外界の出来事を知り且つ知らせるためには、眼や耳が吾々の身体に具(そなわ)っている。単純な社会生活にあってはこの眼や耳で十分に事が足りたのである。人間の生活を動かすものは主として眼や耳の届く場所から生じていたからである。封建社会においても日常の会話で問題となる人物は、通常これを語る人々が既にその容貌を知り、その言葉と動作とに接したことのある人間であった。ところが現代においては人間の生活に作用を及ぼすものが、およそ眼や耳の届かぬ遠隔の地に住んでいる。現在では眼や耳、総じて人間の感覚器官は自然のままの形態では最早(もはや)環境への適応に役立つことが出来ない。感覚器官は補足されねばならぬ。延長されねばならぬ。発達した技術的装置はあたかも新しい眼であり耳である。技術の進歩は何人も知るように極めて迅速である。だがこの迅速に進歩してやまぬ技術がまず第一に摂取され応用されるのは、軍事的領域を除いたら、恐らくこの報道や通信の領域であろう。電信、電話、ラジオ、新聞、そういうものは吾々の感覚器官の延長であり補足である。というよりも既に今日では吾々の感覚器官そのものになっていると言えるかも知れない。健全な眼や耳を持っているものは、自分が眼や耳を持っているという特別の意識を欠くのが普通である。それ等のものがはっきりと意識に上って来るのは、かえって何か故障の生じた場合である。それと同様に、新聞が毎朝配達され、ラ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ジオが朝から晩まで喋(しゃべ)っているという状態は、今日の吾々にとって特にはっきりと意識する必要のない当り前の生活である。吾々はそれで安心して生きて行くことが出来るのである。

ところで吾々の感覚器官の延長であるようなものが突然その機能を停止するか、またはその機能を甚だ不十分にしか発揮せぬか、或(あるい)は――畢竟(ひっきょう)同じことであろうが――十分に機能を発揮していても吾々がそれから遮断されるというような場合を考えて見よう。吾々が急にこういう状態の中に移されたとすると、その時吾々の心は何事でも自由に書き記すことの出来る白紙になってしまう。しかし白紙という表現は余り適切なものでないであろう。蓋(けだ)しこの白紙は暗い底知れぬ不安によって一色に塗られているからである。それは眼や耳が急にその機能を果さなくなったのと同じであろう。(2)<u>そうではない。</u>それよりももっと不安なものである。眼や耳に故障が起こった時、その原因は一般に自分の身体の中にある。医者へ駈(か)けつければ癒るであろう。ところが感覚器官の補足乃至(ないし)は延長がその機能を営まなくなった時、その原因は勿論自分の身体の内部などにあるのではない。自分の外に、しかも今となっては容易に知ることの出来ないところにあるのである。自分でどうすることも出来ないような強力なものが、その原因

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１８／３０点を突破せよ！

となっているのであろう。吾々が眼隠しをして往来を歩かせられた場合、「水溜りがある！」と言われると、もう一ヶ月も好天気が続いているということを考える暇もなく、いやたとえ考えたとしても思わず足をとどめるであろう。これと同じように報道、通信、交通がその機能を果さなくなった時、社会の大衆は後になっては荒唐無稽として容易に片づけることの出来るような言葉もそのまま受け容れるのであって、(3)どんな暗示にも容易にひっかかってしまうものである。

（清水幾太郎『流言蜚語』より。一部省略）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）のように筆者が考えるのはなぜか、説明せよ。

問二　傍線部（2）はどういうことを言っているのか、説明せよ。

問三　傍線部（3）のような事態が起こるのはなぜか、本文に即して答えよ。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一

二

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　過去問実践演習

２０１５年前期理系第二問
清水幾太郎『流言蜚語』より。一部省略

要旨

報道は人間の生理的な必要である。近代以降、遠くの出来事が個人の生活に影響を及ぼすようになり、また社会が複雑になり、社会の変化が激しくなり、個人が自分で生きて行かなければならなくなったからである。報道は感覚器官そのものになっている。ところが、報道が機能不全に落ちいった場合は、感覚器官が機能不全に落ちいった場合よりも、不安を催すものとなっている。

解答（３０点）

問一　１０点

現代は各個人が自由に生きる権利をもつが、自由に生きるためには、世界の諸国が緊密に結ばれ、遠くの出来事が個人の生活に影響し、社会の複雑性が増し、社会の変化と運動が激しさを増している環境を知らねばならず、報道はその環境を知るためのものだから。

解答ポイント

① ａ世界の諸国が緊密に結ばれ、遠くの出来事が個人の生活に影響し（１点）
ｂ社会の複雑性が増し（１点）
ｃさらに社会の変化と運動が激しさを増している（１点）

② ａ現代は各個人が自由に生きる権利をもつ（２点）
ｂ自由に生きるためには、環境を知らねばならず（２点）

③ 報道はその環境を知るためのもの（３点）

問二　１０点

感覚器官が機能停止した場合は原因が自分の内部にあるのに対して、報道が機能不全または不十分になるか、あるいは吾々から遮断された場合は、原因が自分の外部にあり、対策が立てにくいという点でより不安だということ。

解答ポイント

① 報道が機能不全または不十分になるか、あるいは吾々から遮断された場合（３点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② a感覚器官が機能停止した場合は原因が自分の内部にあるのに対して、より不安だ（3点）
b原因が自分の外部にあり（2点）
c対策が立てにくい（2点）

問三　10点

現代の環境は世界中が結びつき、複雑な社会の変化と運動が激しさを増しているため、その環境を知り適切な判断をするために必要な報道、通信、交通が機能不全になったならば、自己責任で生きる現代の個人は底知れぬ不安に襲われ、荒唐無稽だと思われることが起こる可能性をも信じてしまうようになるから。

解答ポイント

① 現代の環境は世界中が結びつき、複雑な社会の変化と運動が激しさを増しているため（2点）
② その環境を知り適切な判断をするために必要な報道、通信、交通が機能不全になった（3点）
③ 自己責任で生きる現代の個人は底知れぬ不安に襲われ（2点）
④ 荒唐無稽だと思われることが起こる可能性をも信じてしまうようになる（3点）

解説

問一　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。まず傍線部を分析すると、「現代の人間が報道を欲する」という部分と、「その当然の権利に基づいている」という部分の間に飛躍がある。この飛躍を埋める論証を本文中に求める。

まず、第一段落一文目から三文目に「報道は人間の生理的な必要である。しかもこの必要は近代になってから日をおってその強度を増している。それには色々な理由が考えられる」とある。よって、「色々な理由」の説明を以下に求めていく。すると、「第一に経済的にも政治的にも文化的にも世界の諸国が緊密に結び合され、そのために世界の片隅に起こった事件がやがて各個人の生活に影響を及ぼすようになって来たからであろう」「第二に社会の事情が甚だしく複雑性を加え来っていることが考えられる」「第三に社会の変化と運動とがその激しさを加えて来たことを指摘しよう」という部分が見つかる。この①「社会環境の変化」が第一の条件である。

次に「第四に近代社会においては各個人が自分で生きて行

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

かねばならぬということが注意されねばならぬ」という理由に注目する。これは、環境の変化ではなく、いわば「自由に生きる権利」を得た個人の変化である。ただし、「自らを生きようとするものは、自ら環境に適応せねばならず、自ら環境について知らねばならぬ」とあるように、②「自由＝自分で生きる」という個人の権利を享受するためには、環境について知る必要があるということも述べられる。

　最後に、第二段落六文目以降に「現代においては人間の生活に作用を及ぼすものが、およそ眼や耳の届かぬ遠隔の地に住んでいる。現在では眼や耳、総じて人間の感覚器官は自然のままの形態では最早環境への適応に役立つことが出来ない。感覚器官は補足されねばならぬ。延長されねばならぬ」「電信、電話、ラジオ、新聞、そういうものは吾々の感覚器官の延長であり補足である」とある。これは③環境を知るためには報道が必要であるということを述べている。よって、自由に生きるためには環境を知る必要があり、また、環境を知るためには報道が必要であるということになる。これで「報道」ということと、「自由に生きる権利」がつながる。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問二　傍線部内容説明問題

　傍線部のわかりにくい部分を詳しく、わかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、①「そう」という指示語、②「ではない」という「否定」がポイントであることがわかる。以上のポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

　まず①「そう」の指示内容であるが、第三段落五文目の「それは眼や耳が急にその機能を果たさなくなったのと同じであろう」である。そしてまた「それは」という指示語があるのでさらに指示内容を求める。すると、「報道が機能停止するか、機能を不十分にしか発揮しないか、または吾々が遮断された場合」である。

　次に②「ではない」であるが、直前のポイント①で「報道が機能停止するか、機能を不十分にしか発揮しないか、または吾々が遮断された場合は、眼や耳が急に機能を果たさなくなったのと同じ」であるということを受けて、それを「否定」するために、「同じではない」ということを言っている。つまり、七文目にあるように「報道が機能停止するか、機能を不十分にしか発揮しないか、または吾々が遮断された場合」は「眼や耳が急に機能を果たさなくなった場合」よりも「もっと不安」になるということである。

　最後にその理由であるが、八文目以降に「眼や耳に故障が

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

起こった時、その原因は一般に自分の身体の中にある。医者へ駈けつければ癒るであろう。ところが感覚器官の補足乃至は延長がその機能を営まなくなった時、その原因は勿論自分の身体の内部などにあるのではない。自分の外に、しかも今となっては容易に知ることの出来ないところにあるのである。自分でどうすることも出来ないような強力なものが、その原因となっているのであろう」とある。つまり、「自分ではどうにもならない外部に原因があるため、対策を立てにくい」ということがより不安になる理由である。

以上のポイントをまとめて解答を構成すればよい。

問三　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「報道、通信、交通がその機能を果さなくなった時」と「どんな暗示にも容易にひっかかってしまう」の間に飛躍がある。この飛躍を埋める論証を本文中に求める。

まず「報道、通信、交通がその機能を果さなくなった時」どうなるかというと、問二で「報道が機能不全または不十分になるか、あるいは遮断された場合は、原因が自分の知ることのできない外部にあり、対策が立てにくく、不安になる」ということを捉えている。

また、問一で個人として生きるために、「世界の諸国が緊密に結ばれ、遠くの出来事が個人の生活に影響し、社会の複雑性が増し、さらに社会の変化と運動が激しさを増している環境を知らねばならない」ということを捉えている。そして、「報道はその環境を知るためのもの」である。

まとめると①「遠くの出来事が個人の生活に影響し、社会の複雑性が増し、さらに社会の変化と運動が激しさを増している」ため、何が起きるかわからない②「環境」を知るために必要な「報道」が機能不全に陥った時、③「原因が自分の知ることのできない外部にあり、対策が立てにくく、不安になる」。

すると、第三段落十四文目にあるように④「社会の大衆は後になっては荒唐無稽として容易に片づけることの出来るような言葉もそのまま受け容れ」てしまう。よって、「どんな暗示にも容易にひっかかってしまう」のである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。